

I 目指す学校 「人権を尊重した教育のもと、生徒一人一人のライフステージを見通し、自立と社会参加に必要な確かな学びを実現する学校」 1 生徒一人一人が生き生きと通い、自分の成長を実感できる学校 2 保護者、地域、関係機関と協働し、特別支援教育推進の核となる学校 3 研修・研究を重ね、専門性の向上と学習活動の充実・改善に取り組み続ける学校	II 教育目標 ・基礎学力を充実させ、自ら学び、考え、主体的に表現する力を育成する。 ・互いを尊重し合う思いやりの心と規範意識を育成する。 ・社会生活に必要な体力、技能、態度、習慣を育成する。 ・社会の一員として自ら行動し、社会に貢献できる力を育成する。	III 校訓 「誠心誠意」 生徒や教職員が何事にも誠実に責任をもって取り組み、保護者や都民に信頼される学校を目指す。
--	--	---

社会人になる準備の3年間を過ごす学校として

IV 中期目標と方策			V 今年度の取組目標と方策	
			1 教育活動の目標と方策	2 数値目標（◎重点）
学 ぶ	1 人権を尊重した教育の充実	①生徒の人権に配慮した指導の徹底	ア 適切な援助希求行動の育成（SOSの発信）	◎適宜（全教育活動）
			イ 人格を尊重した「さん」呼びの推奨	◎適宜（全教育活動）
		②体罰・いじめの早期発見の推進と防止の徹底	ウ 自己肯定感、自尊感情や互いを思いやる気持ちの育成	◎適宜（全教育活動）
			エ 乱暴な態度や言葉、追い込む指導等の禁止	不適切な指導ゼロ
	2 根拠に基づく授業改善と教員の専門性向上	①アセスメント、外部専門家の活用による授業改善	ア 体罰を生まない職場風土醸成のための研修の実施	年間3回以上
		②主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善の推進	イ いじめ早期発見の徹底（チェックリストの実施）	各学期1回
	3 自立の礎となる生活指導の充実	①ルールを守る安全・安心な学校生活の実現	ア 専門家（障害当事者・OT・PT等）による授業観察及び評価	年間15回以上
		②安全・安心な通学環境の整備	イ 外部専門家を積極的に活用した授業改善の推進	◎各科・教科1回以上
	4 オリンピック・パラリンピック教育の推進	①学校2020レガシー（※）の構築に向けた取組の推進	ア 授業者支援方式による研究授業の実施	年間15回以上
			イ 授業に関する生徒評価の満足度の向上	◎肯定的評価90%以上
つ な が る	1 自立と社会参加を目指す進路指導・職業教育の充実	①生徒が図書に親しむ環境づくりと学校図書活用の推進	ア 校訓（誠心誠意）と「あ（挨拶）・じ（時間）・み（身だしなみ）」の指導	毎月1回以上（学年集会等）
			イ 生徒ハンドブックを活用した指導（生活のきまり）	毎月1回以上（学年集会等）
			ウ 生活指導だよりの発行	年間3回以上
			ア スクールバスの安全な運行と車内事故の防止	年間車内事故ゼロ
			イ スクールバス連絡会、乗務員研修会の実施	年間3回以上
			ア 「4×4の取組」（※）を明確にしたリビッック・バリビッック教育の実施	全教科で実施
			イ アダプテッド・スポーツ（※）を取り入れた体育活動の充実	体験3種目以上
			ウ 芸術・文化活動の推進	3展覧会以上出展
			エ 国際交流の実施	各科隔年で1回以上
			ア 読書活動の推進	校内POPコンテスト実施。
語 り 合 う	1 部活動・特別活動の充実	①各種検定を活用した学習意欲の向上	ア 現実度の高い避難訓練の実施	現実度の高い訓練3回以上
			イ 伝言ダイヤルを活用した緊急時連絡訓練の実施	年間2回
			ウ 教員の救命技能認定証取得の奨励	教員の取得率100%
			ア 地域と連携した総合防災訓練の実施	年間1回以上
			ア 学習環境の安全点検の実施（コーナークッション設置等）	年間2回
			イ 学習指導案に事故防止策の記載	研究授業時に必須
			ア 体育健康教育推進校としての実践継承	研究授業
			ア 活動内容の充実	生徒の授業満足度90%以上
			ア デジタル教材の開発	◎各教科一点以上
			ア 漢字能力検定、日本語ワープロ検定等の受検推進	検定参加者延80名以上
語 り 合 う	1 自立と社会参加を目指す進路指導・職業教育の充実	②作業学習・職業に関する専門教科の指導の充実	イ 各種技能検定（清掃、喫茶接客、流通等）を活用した意欲向	検定参加者延20名以上
			ア 普通科各作業班の作業内容の充実【普】	作業学習生徒満足度90%以上
			イ 作業製品販路の充実【普】	年間売上20万円以上
			ウ 家政・流通の活動内容の充実【職】	専門教科生徒満足度90%以上
			エ 商品の開発・研究と外部販売の充実【職】	年間売上100万円以上
			ア 葛飾商業高校との連携による販売と作業製品改善【普】	年間5回以上 作業製品モニター実施年1回以上
			ア 外部専門家による作業内容、方法の指導・助言	年間延100時間以上
			ア 適性に応じた適切な進路指導の実施	◎企業就労希望者100%
			イ 個別移行支援計画を活用した就労支援機関等との引継ぎ	100%
			ア 足立区選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施	各科年1回実施
語 り 合 う	2 地域と連携した教育活動の充実	①主権者教育、消費者教育の充実	イ 関係機関との連携も視野に入れた消費者教育の実施	各科1回以上
			ア ニーズに応じた適時迅速な支援会議の実施	年間随時
			イ 外部専門家（SSW）を活用したより効果的な支援策の検討	年間10回以上
			ア 地域関係機関等における環境整備活動（清掃等）の実施	年間10回以上
			イ 地域自治会を招いての交流活動の実施	年間1回以上
			ア 文教大学等でのパン販売実施	月1回以上
			イ 都立版エリアネットワークの充実	◎年間20回以上
			ア 担当する授業の紹介	◎一人1回以上
			イ ホームページの積極的活用による発信の更なる強化	◎更新年間180回以上
			ウ X（旧Twitter）を活用した迅速な情報提供	◎発信年間300回以上
語 り 合 う	3 積極的な発信・広報	① インターネットを活用した積極的な情報発信	エ Teamsを活用できる環境整備推進	100%アカウント配布
			ア 足立区を中心とした中学校への理解推進の徹底	足立区内全中学校訪問
			イ 職能開発科学科説明会の充実	参加者300名以上
			ウ 出前授業・体験授業の実施	◎年間3回以上
			ア 授業参観・研修会への参加	◎各1回以上
			ア 運動系、文化系部活動の活動促進	加入率40%以上
			イ 近隣特別支援学校等との交流、合同練習等の実施	年間3回以上
			ア 近隣交流校（淵江高校）との交流活動の実施	年間2回以上
			ア 食育だよりの発行	年間4回以上
			イ 食物アレルギーとエビエンの使用に関する研修の実施	年間1回以上
語 り 合 う	4 ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた職場環境の整備	①健康の基盤となる食育の推進	ウ 緊急時対応訓練の実施	年間1回以上
			エ 食育相談の実施（外部ボランティアの活用含む）	年間10回以上
			オ 食育講話の実施（外部ボランティアの活用含む）	年間1回、参加15名以上
			カ 適正なBMI（ボディ・マス指数）の推進	通信3回以上
			ア 歯科衛生士と連携した歯科保健指導の実施	年間3回以上
			イ 臨床心理士と連携した生徒相談の実施	年間150回以上
			ア 医療的ケアに関する研修の実施	年間1回
			① 保護者との連携の工夫・充実	回収率80%以上
			ア 授業参観週間の実施	参観者数延50名以上
			イ 保護者向け進路説明会の充実	年間3回以上、満足度80%以上
語 り 合 う	4 ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた職場環境の整備	②保護者、地域との積極的な情報共有の推進	ウ 自治体、地域住民が参加できる避難訓練	年間1回以上
			ア 教職員の超過勤務時間の適切な把握による自己管理意識の醸成	◎各月超過時間45時間以内85%
			ア 「マイ・プラスワン行動」の推進	全教職員
			イ ハラスメントや服務事故の無い、明るく働きやすい職場環境づくり	服務研修年間3回
			ア 教職員の超過勤務時間の適切な把握による自己管理意識の醸成	◎各月超過時間45時間以内85%
			ア 「マイ・プラスワン行動」の推進	全教職員
			イ ハラスメントや服務事故の無い、明るく働きやすい職場環境づくり	服務研修年間3回
			ア 教職員の超過勤務時間の適切な把握による自己管理意識の醸成	◎各月超過時間45時間以内85%
			ア 「マイ・プラスワン行動」の推進	全教職員
			イ ハラスメントや服務事故の無い、明るく働きやすい職場環境づくり	服務研修年間3回

※「学校2020レガシー」⇒各学校の特色を生かし、家庭や地域等と連携を図りながら、東京2020大会以降も長く続けていける教育活動
※「4×4の取組」⇒「4つのテーマ」〔オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、文化、環境〕と「4つのアクション」〔学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支える〕を組み合わせた取組
※「アダプテッド・スポーツ」⇒障害者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般